

### 令和7年度第3回新潟市子ども・子育て会議会議概要

開催日時	令和8年3月27日（金）午後1時00分～2時55分
会場	市役所本庁舎3階対策室
出席委員	藤瀬会長、斎藤裕副会長、大井委員、郷委員、小林委員、佐藤委員、清水委員、下田委員、鈴木委員、関委員、富田委員、廣川委員、渡辺委員 （出席13名、欠席7名）
事務局 関係課 出席者	こども未来部長、こども政策課長、こども家庭課長、 幼保運営課長、幼保支援課長、児童相談所所長、 教育総務課長、学校支援課長、生涯学習推進課長 他各課担当者
傍聴者	0名
内容	<p><b>【議事】</b></p> <p>（1）中学生、高校生の居場所についての意見交換</p> <p><b>資料1</b>中学生、高校生の居場所についての意見交換</p> <p>○事務局より、意見交換の趣旨と進め方について、説明を行いました。</p> <p>○委員からは、次の意見・質問がありました。</p> <p>（藤瀬会長）</p> <p>それでは先ほどの事前アンケートの取りまとめの順番でお聞きしたいなと思っておりますので、願います。</p> <p>（大井委員）</p> <p>私は休日とかは結構ラウンドワンなどに行っている中学生とか高校生とかを見かけたりします。新潟駅から送迎のバスが出ていたりするので、行きやすいのかなって思います。平日は結構スーパーとかのフードコートとか、ファーストフード店とかにすることが多いという感じです。関わっている大人はそこ場所にはいないと思っています。</p> <p>既存の公共施設でということですが、例えば老朽化で廃校になった学校とか、あとは中学生もこれから部活動が廃止になるので、ますます居場所がなくなるのかなと思っているのですが、学校内の教室とか学校のこと、本体としきれ部分というか、例えば学校開放などで利用している場所とか活用できればいいかなと思いました。</p>

(郷委員)

コンビニの前とか話のフードコートのフリースペースのところとかにはいる感じはしています。坂井輪地区公民館は職員の方いらっしゃいますけど、夜間になるとシルバー人材のおじいちゃんがいてくださって、別にこの子たちをいつも見ているっていう感じの方はいらっしゃらないかなっていうふうに思っています。

これからの居場所ですが、やはり中学生部活が地域展開になってきますし、中学校区で子どもたちにどんな場所があったらいいか話し合いをした時に、やはり徒歩で行けるところ。そして誰でもフリーに入れるところ、例えば小学校だとふれあいスクールが放課後の学校でいくつかの場所を使ってやってくるんですけど、中学校でも中学生ふれあいスクールみたいなものがあればいいなど。地域の方がいてくれたら体育館。それからフリースペースおしゃべりとか、なんかそんな風なものが欲しいなって意見が出ていました。そして、学校で部活がなくなるって事は、学校が終わるまでの時間ある程度どこか残れる場所、どんな場所かちょっと今思いつきませんが、教室を一つ二つ開放していただけるといいかなと。

あと、各町内にある自治会館ですが、使うのは主に高齢者という刷り込みがあつて。子供たちがいると「なんで」となる。麻雀クラブのおじいちゃんたちとか将棋だとか手作りの会とかあるんですよ。でもその手作りの会の中に中学生、高校生とか入れてもらえるといいんではないかなっていうふうに思っています。そしてまた地域にも公園はあるんですけど、公園は小さいお子さんのためというイメージがある。公園で中学生が10人ぐらいでしゃべっていた時に、ある方が我が家のピンポンを鳴らして、「なんか体操着を着た中学生がいっぱいいるんだけど、怖い感じだから見に来てもらえませんか？」って言われたこともあつて。これからは地域に子供たちがいろんな場所にいるよ。っていうふうなことを地域の人たちもわかった方が、子供たちが自由にいられる場所になるのではないかなっていう風に感じてます。

(小林委員)

皆さんから話がなかったところで、子ども食堂が挙げられるかなと思いました。子ども食堂は主に未就学児や小学生が多く利用するイメージではあるんですが、中には中高生も居て、高校生ではボランティアとして参加している子ども食堂もあります。

また、公民館、自治会館、児童館などに中高生が集まっている様子がありますし、また、図書館のロビーで机と椅子が配置ところに中高生が居て、喋ったりしています。市民会館ですとか、東区プラザ、江南区福祉センターきら

とぴあ1階のフリースペースのところで、よく子どもたちがしゃべりながらとか飲み物を飲みながら集まっている様子も見られています。

先ほど公園の話も出ましたが、特に西蒲区、南区の公園はよく寒空の下子どもたちが集まっているっていう話はちらほら聞こえてまして。寒そうだからやめさせた方がいいんじゃないか、ですとか、高校生が10人以上集まったりしてるとちょっと怖いっていうところで、地域の方から声をいただいたりというところがありました。西蒲区、南区では徒歩で行けるフリースペースが少なく、子どもたちが集まれる場所を探して公園にたどり着いたという印象があります。

また、スーパーやイオンのフードコートにはやはり多く子どもたち集まって、飲食ができるということが魅力的なのかなと思ってます。

また、関わっている大人についてですが、子ども食堂では運営者の方が声をかけている様子がありますが、他のフリースペースなどでは受付だけして、あとはご自由にといいところで、大人の関わりはそんなに多くはないというかなと思っております。

質問3のところですが、ゆいぽーとは体育館や広い調理室ですとか、広いスペースがありますし、利用料金も他のところよりはちょっと安くなってるかなと思いますので、子供たちが自力で行けるかというところではあると思うんですが、もう少し活用できるかなという風に考えております。

(佐藤委員)

北区では、高校生が区役所3階のフリースペースで勉強しているのをよく見かけます。その3階のところに公民館の事務所があって、円いテーブルがいくつあって、子どもたちが大勢いるのをよく見かけます。

中学生は部活がなくなると心配しています。今まで部活があって5時になると帰るといふ風な形になってたと思うんですけども、今後のことがちょっと心配な点があるなと感じております。

(清水委員)

中高生を見かける場所なんですけれども、ファーストフード店とかショッピングモールのフードコートなどで談笑や勉強している姿を目にする気がします。大人の関わりはないかなと思ってます。既存の公共施設でいうと勉強するなら図書館みたいな静かな場所がいいのかなと思いますけど、やはり談話したり、飲食もできるということもポイントになると思ってます。

あとは防犯上の観点から管理者がいる場所で考えると、各地区のコミュニティセンター、区役所・出張所の空きスペース、フリースペース、また、スポ

ーツセンターにも空きスペースなどがあるかなと思うので、そういったところが活用できるんじゃないかと思っています。

中学生はやっぱり徒歩とか、自転車で移動できる範囲内じゃないといけないでしょうし、高校生になったら電車移動とかも増えてくるけれど、駅の近くとか学校の近くにあるのがいいのかなと思うと、既に各地区にある区役所とかコミュニティセンターを活用するのが一番手っ取り早いのかなというふうには思いました。

また、先ほどもちょっと意見が出ましたが、高校生とかになってくるともうすでに自分の趣味があったり、習い事があったりとか、ある程度自分の時間でやることははっきりしている子もいます。逆に居場所がなく困る子というのは、そういった習い事とかが無く、家に帰るしかないというようなこともかなと思うと、学校を開放して勉強したり、話したりできるような場所があるといいのかなというふうには思いました。

(下田委員)

中高生が集まる場所として、塾や習い事の教室、学校前にある近場のコンビニ、あと図書館や市民会館があります。大人が関わっている場所ですと、中高生が通っている塾個別指導塾です。自分の実体験とアルバイトしている先輩の話からなんですけど、生徒の悩み相談や日常会話する場面を見ていて、中高生にとって学校や家族以外で大人の話し相手となっている。

図書館や市民会館のコンビニなどには大人と関わる機会はあるにはあってもサービスを提供する提供者と利用者っていう事務的な関わりしかない。

既存公共施設で居場所になり得る施設は図書館と書きましたが、学生限定で飲食や会話できたり、wi-fi やコンセントなど使えるスペースがあると居場所になると思っていて、今の高校生はスマートフォンとか持ってますし、中高生と一緒に泊まったことがあるんですけど、その時、wi-fi のパスワードやコンセントの場所を聞かれることがあったので、そこが中高生にとって居場所を決める一番のポイントなのかなと思いました。

(鈴木委員)

特に何も書かなかったのが娘に聞いてまいりました。普段は部活などで忙しいので特に場所っていうところはなかったんですけど、テスト期間中になると鳥屋野中学校区の学生さんたちは結構県立図書館に行っていると言ってます。2階に自習室があるんですよね。また、1階の本があるところにデスクが置いてあったりするので、そこで勉強する。あとはwi-fi やコンセントがあるといいです。Web の講義とかをパソコンで視聴できるので。その他、自

販機や近くにコンビニがあると1日中図書館で勉強する際に便利だと思います。居場所での大人の関わりは恐らく子どもたちも特に求めてはなくて、ただ大人がいるとセキュリティ上安心なのかなというのがあります。

(関委員)

私が生活している中で見受けられるところでいうと新潟駅の構内、椅子があったりとか、そういうところで、中高校生が友達同士で座りながら話しているのを見かけています。また、アニメグッズが買える店舗が入っているビルでよく出入りする高校生とか見分けます。あと、スターバックスコーヒーやファストフード店に居るところをよく見かけます。そういったところで関わっている大人は特にいないのかなと思いますし、子ども同士の交流の場、滞在の場というイメージです。

既存の公共施設で居場所となりうるというところで図書館と書きました。図書館の中には、本を読む人のためのところなので、自習はご遠慮ください。というところもあります。私上越出身ですが、上越の図書館でそういうところもございましたので、住み分けが必要でしょうけれども、学生さん同士の交流と自習というところで、学校でも家でもない第3の場所として、図書館の一つ有効なのかなと思いました。

(富田委員)

私は特に駅から近いマクドナルドやサイゼリヤなど座って話せる場所を書いたのですが、そういった施設は特に中央区に集中していて他の区にはあまりありません。自分でマクドナルドとかサイゼリヤなどに行く中高生はやっぱり活発な中高生というか、元々自ら居場所を探しに行ける力を持っている子どもだと思います。自分はその居場所をそもそも見つけに行けないというか、あまり周りと馴染むのが苦手な子どもを特に対象とするべきだと思います。そうするために色々な区の公民館やコミュニティセンターなどを利用して。馴染めない例えば今日は本紹介をしようとか。手作りで何か作ってみようとか、そういった子たちの興味関心を引き、行きたいと思えるような仕組み、仕掛けを作ることが必要かなって思っています。

また、居場所での大人の関わりですが、私は新潟県立大学の学生なんですけど、子ども子育てに関するサークルが最近できました。そういった様々な大学の子供子育てに興味のある大学生たちと関わらせることで、斜めの関係みたいなのもできて、より子どもが利用しやすい居場所になるのかなと感じています。

既存公共施設の活用では新潟東プラザなどを書いたんですけど、いろんな区

にある公民館などを利用して週一回でもいいからイベントとか開くことで、周りに馴染めない子たちにとって居場所になるのかと思いました。

(廣川委員)

外に出ることもないし、夕方なんかも仕事してますので、普段高校生、中学生がどこに集まっているかと全くわからないんですが、新潟駅や新潟日報の社屋の2階に居たりするのを見かけてます。どういう場所がいいかというのはそれぞれみんな違うと思います。勉強したい人、遊びたい人、喋りたい人、それぞれみんな違う。それぞれにあったところということになると思うんですけども私なんかは学校終わるとしばらく教室でしゃべって、それがすごく印象深くて、下校時間まで居たと思います。学校っていうのは一つの居場所になるのかな。

がやがやしているところで勉強している人がいますが、勉強する中でも人々に触れ合いたいとか、人を感じたいっていうところがあって、そういった場所で勉強するのかなと思いますよね。そうなるちょっとしたところで教えてもらえるような先生がもしあれば、居場所になると思いますので、学校なんてやっぱり一つの選択肢になり得るかと思いました。

(渡辺委員)

私西区に住んでるんですけど、高校生はほとんどいないんですけど、中学生が集まっている場所で、黒崎市民会館は小学生もいるし、中学生もいます。フリースペースで話をしてる子もいるし、自習室みたいなどころがあるので、そこで勉強している子もいます。

高校生はどこに居るかって考えた時に、駅周辺が多いんじゃないかなっていうイメージがあります。マクドナルドだとかサイゼリヤとか、スタバとか。私自身今高校生の子が2人いるんですけど、部活をやってて部活が終わって帰ってくると7時とかになって、そこから外出することはほとんどなくて、基本的に学校と家の往復になって、土日も部活になっているので、そこまで居場所を求めているような感じはないです。また、居場所での大人の関わりですが、大人がいたとして、子供たちは本当にその大人と関わり合いを持ちたいのか疑問に思っています。それよりも友達に相談したりすると思っていて、フリースペースに居る大人と信頼関係ができてない中で相談はできないと思っています。

既存の公共施設の活用ですが、やはり黒崎市民会館とか。北部公民館もあるんですけど、そっちは小学生がすごい集まっているイメージあります。いろいろサークル活動とかやられてるので、そういったつながりとか。子供たちも

普通に日頃から来て遊んだりしてて、宿題やったりとかもしてるので、そういう場所はいいなと思うんですけど、やっぱり中高生になってしまうと距離感というか、友達と一緒にそういう場所に行くっていうのはかなり減ると思います。思春期にもなりますし、ちょっと大人との関わり方も変わってくると思うので、その辺りちょっと難しいところです。行政ではなくても、子ども食堂をやられてる方とか子供の居場所を作りたいっていう一般企業の方とかで作ってもいいのかなと思います。

(鈴木委員)

富田委員のお話を聞いて思い出したことがあって、横浜市がメタバースを利用した居場所づくりをやってるんですよね。自分でリアルな心の居場所に行けない人だとか、そういう人も利用しているらしいんですよね。アバターで参加できて、周りで話してる声が聞こえるので、参加してるだけでも居場所になって、だんだんコミュニケーションをとる意欲がわくような形になっています。

(藤瀬会長)

私も高校生の娘が居まして、最近の若い子ってあんまり家で勉強しないで、どこか外で何か勉強していると思っています。試験前とかになると勉強する場所が必要みたいなことでスターバックスやゆいぽーとや、ネクスト 21 の椅子と机がある場所を利用しているようでした。

通う高校が別になった、中学の時のお友達に会うためにどこであったらいいだろうって考えてゆいぽーとに行っていました。そこでまた、同じ中学だった別友達に偶然また久しぶりに会えたんだよ。みたいな話もしました。

あと、公園も何か食べるのに使ってると言っていました。ですので、常に大人が居ない場所を利用しているようです。

けれども、下田委員や富田委員のような、ちょっとお兄さんとかお姉さんが管理人さんじゃないんですが、ゆるくいてくれて、そして別に特に何か関わらなきゃいけないとかいう仕事じゃないんだけど、子供たちの方がちょっと喋りたい時はちょっと喋れたり、勉強ちょっと教えてみたいな時には緩く教えてくれたりとか。なんて呼べばいいのかわかりませんが、そういった方がいたりするとまたいいのかな、なんて思っていました。また、本当にいる場所が欲しくてとか、なんとなく人の気配を感じてたくてみたいな人も居心地よく入れる場所になるといいなとちょっと思っていました。

それから、既存の公共施設では、公民館とか、それから地域のコミュニティハウスとか、それから学校を思い浮かべました。

公民館って固いイメージとか入りにくいみたいなイメージがまだあるのかなと思っています。公民館もインスタとかを使ってイメージ戦略もやってらっしゃるかと思いますが、利用したことのない人でも行って居心地がいいと感じてもらえるといいのかなと思いました。コミュニティハウスも高齢者の方と共存しながら、一緒に活動できる場所になるといいなと思います。学校も喋ったり、何か時間を過ごしたりみたいなことが、もう少し自由にやれると子どもたちにはいいのかなというふうに思いました。

(斎藤副会長)

中高生の時期っていうのは基本的には親御さんや大人に対して急速に反発をする時期に入っています。大人に対して強い憧れと強い反発を持ちながら大人になっていく時期ですので、非常に難しい。昔はほぼ強制的に部活がありましたね。部活が自分の居場所というか活躍する場所としてあった。そこで友人関係がより濃密になった。だから、私的にはいわゆる部活の民間委託地域移行、地域展開は非常に難しいんだろうと思います。いろいろな部活、スポーツの指導者をどうセクションしていくのか。ボランティアでお願いするのか、金銭的なバックアップをするのか。信頼できる安全な人物なのか、など。その辺の指導者の育成、そしてその人たちをどうバックアップしていくのかが大きな問題だろうと思っています。

2 つ目ですね。高校生になればお勉強も命です。ここをどうサポートしていくのか。そして不登校も大きな問題。不登校が原因で勉強がわからない、勉強についていけない。ここのサポートをどうしていくのかだから、場所を提供するだけではなくて、人的な保障が必要。勉強だったら勉強の、スポーツだったらスポーツの専門家がしっかりやっていく。サッカーや野球はほぼほぼそちらに移行してますよね。ただそうなってくると、お金を持ってる人でなければできなくなっていくんですよね。学校の教育の中でスポーツや学業を、どんな人でもちゃんと学べるそういうことができるようになってほしいなと思うんです。

そしてもう一つは先ほどメタバースにおける居場所の話がでしたが、人間は、やはりリアルな存在なので一生バーチャルで生きてないじゃないですか。メタバースなどの先端技術を上手く使いながらリアルなものに架け橋ができるようになるといい。

(藤瀬会長)

こどもの居場所づくりを含めたこどもの育ちについて、やっぱりどういう環境を整えていくか、大人が何をしていくかというのがますます問われる時代

になってきてるんだなと感じておりました。

それでは一巡して皆さんの身近な例もお聞きいたしましたが、それぞれのご発言に対して、あるいは内容に対してもうちょっとここを聞いてみたいなどございましたらどうぞ自由にご発言いただきたいと思います。いかがでしょうか。

(渡辺委員)

中学校の部活の地域移行ですが、やっぱり学校ごとにやり方が違う。完全に地域移行しているところもあれば、できる限り学校で継続してできる時間帯まではやって、その後に地域の方をお願いするということもあります。PTAでも去年ぐらいからずっと話ししてるんですけど、場所によってかなり違う。上手くいっているところはキーパーソンがいます。部活が命みたいな先生がいる学校は先生がコーチとして指導者として残って、学校を使ってやっているところもある。それでも、どこにもそういう方がいらっしゃるわけなし、どちらかというと忙しくて仕事がいっぱいあるのに部活まで見てられないっていう先生が多分増えてきてるんでしょうね。

また、今は厳しく指導できない環境になっていて、少しでも強く言うと暴言や体罰とされるような状況じゃないですか。小学生の頃からそうなんで、昔の部活を知ってる人間としては部活としてその技術だけじゃなくて、精神面も鍛えてもらってたと思うんですよね。我慢強さ、人間体力みたいな。目的を持って最後のやり抜く力みたいなものがやっぱり今ほどほとんどなくなってきていると思うんで、すごく心配になっていきます。

(佐藤委員)

民生委員の会合では公共施設の公民館を使わせてもらってたんですけども、子供の姿を月1回ぐらい見たいってことで、小学校の図書館を定例会の会場にしています。会議が始まる前に館内を回り、会議が終わって時間のある方はもう一度回って子供と接触してくるという、そんな取り組みもしています。我々は濁川地域なんですけれども、一生一緒なんです。学校を卒業してもかなり地域に残ってまして、リアルな関係性は私は心配してないんです。地域の方がみんなで見守るんだってことを小学校、中学校の校長先生も私と一緒に言ってますので、そういうところは心配してないんです。逆に地域の外の居場所に出ていく機会が少ないと思いますので、そういったところをサポートしていかなきゃならないかなと、そんなふうに思っています。

(大井委員)

私は中学校のコーディネーターをしていますが、中学生の部活が地域移行になる、4月からどうしようかっていう話になり、コミュニティスクールの会長の名前で味方スクールクラブっていうのをまず立ち上げました。そこで卓球はそのまま外部指導者の方が見ていただけるということで、そのまま続けて。あと、吹奏楽部も外部指導者の方が見ていただけるということで、何とか続けられることになりました。なので、そのスクールクラブの参加をどんどん増やしていく方向です。他の文化部もどうしようかとなっていて、公民館の方ともお話ししてるような状態です。中学校だと学校と区切られているランチルームというのがあって、外から入れて、トイレもついている状態なので、そこを利用できるかなって考えているところでした。

(郷委員)

新潟市青少年育成協議会では、3年間ぐらい会長研修会に部活の地域移行というテーマで行っていました。本当に各地域によってバラバラで、例えば中央区にある小規模校などは充実した地域の受け皿ができています。そしてやっぱり中央区以外の周辺区では、例えばこの中学校は少子化で野球部がないので、3つぐらい合わさってこの学校のグラウンドでやります。でも、子供たちが行くためのバスはない。交通機関がないので親御さんが送迎できる子どもだけというふうな形になってしまう。いい取り組みなのかどうかは別として進んでいる学校と、全く今まで通り学校に頼るしかないなっていう地域とで差があります。先ほど渡辺委員が触れていましたが、私もある校長先生に部活は技術だけではなく、先輩後輩の縦関係とか、いろんなことを学べると話したところ、それは今で言うパワハラの根源になるというような返事がありました。子どもたちの環境が昭和の頃と変わっていて、いろんな学校の先生の不祥事とかも出てきているので、子どもを守るための体制づくりの比重が大きくなっている。多様な子どもたちのための教育の中で、集団の中で我慢とか耐えるとか、そういった力の育成ができるのかなっていう風な感じがします。

私がいる坂井輪中学校では、震災で学校が使えず部活もできなくなったので、各小学校を借りて練習に行くようになりました。そこで小学校の学校開校している地域の卓球とか、剣道とかの方々がもうちょっと遅くまで残ってれば自分たちが中学生を見るよっていう風な、そういった関わりができてるところもあるので、これから整理しながら進めていく感じです。

(下田委員)

感想になってしまいますが、先ほど中央区のマクドナルドやサイゼリヤなどに集まっているというお話しの中で、思い出したことなんですけど、自分は今西区の方に住んでいます。近くにいとこの中高生が居て、平日は公民館とかに行くけど、休みの日は自転車で万代の方まで行くと言っていて、遠いのになんか何で行くんだろうなと思ってました。居場所があるから、中央区に集まっちゃうのかなって感じました。

(藤瀬会長)

ありがとうございます。他にいいのご発言でご質問とかよろしいですか。まだまだお話ししたいところがございますが、時間の関係もありますので、先に進めさせていただきたいと思います。

### 【報告事項】

#### (1) 幼保部会の開催報告について

##### 報告資料1 幼保部会の開催報告について

○事務局より、認定こども園へ移行する特定教育・保育施設の利用定員の変更などについて説明を行いました。

○委員からは、次の意見・質問がありました。

(藤瀬会長)

最後の方でご説明いただきました。保育士の宿舎借り上げ支援事業の利用数が伸びてきているというお話がありましたが、差し支えなければ年間でどのくらいの利用実績があるのか、教えていただければありがたいです。

(事務局)

年間の利用実績としましては、令和5年度は新規で18件継続19件合計37件令和6年度新規18件継続31件計49件令和7年度新規20件継続37件で57件という推移となっております。

(藤瀬会長)

ありがとうございます。これで保育士の方々も生活がより充実してくれるのでしょうか。他にいかがでしょうか。それではここまでとさせていただきます。続きましての報告事項2について、事務局からご説明をお願いいたします。

(2) 新潟市子ども条例推進に係る取組状況について

報告資料2 子ども条例取組状況

○事務局より、新潟市子ども条例の取組などについて説明を行いました。  
○委員からは、次の意見・質問がありました。

(佐藤委員)

聞き流してもらって全然構わないんですけども、私共民生委員は広く市内に委員がいますので、私の耳に入ってきたことなんですけども、ある先生が発達障害で程度が重いこどもに算数を教えている際、なかなか覚えてもらえないということで、これからはAIの時代だというふうな言葉があったと。その発言はどうかの印象に残っております。

(斎藤副会長)

今のお話はなかなか難しいです。今医療的な意味で発達障害というよりは神経発達症という風な病名にしています。数字そのものが歪んで見えたり、長文が途中で全く読めなくなるっていうケースもあります。喋るのはできていても読めない。そういう子供たちをどうサポートするかっていうのは、今ありましたけれども、AIを使ったりパソコンなどでフォローしながらやっていくというのを学校の先生もとても苦勞されているんだろうと思います。そういう子供たちをどうインクルーシブしていくかは大きな課題だと思っていて、行政や大学研究、地域の皆様も理解して進めていけば、そういう人たちもちゃんと社会の一員となって仕事ができるんじゃないでしょうか。

(廣川委員)

原曲性の学習障害というのはわからないんです。普通に接していて、あるところができないっていうことなんで、学校の先生からするとできないというふうに思われちゃうので、そこが本人は非常に辛いところだと思います。新年度から5歳児健診が始まります。別に引っ掛ける問題じゃなくて、その人たちに対して手を差し伸べてあげて、なんとか一緒に頑張りましょう。というところで、どういう方向でこう持っていけば一番いいのかという親御さんと一緒に考える機会ですね。始めは1区で試験的に。それから、少しずつ広げていってノウハウを得て全区でできるように進めていきたいと考えてます。

(藤瀬先生)

ありがとうございます。他にいかがでしょうか。それでは（２）にはここま  
でとさせていただきます。続きまして新潟市の令和８年度予算子ども未来部  
の主な取り組みについて、事務局からご説明お願いいたします。

### （３）令和８年度の子ども未来部の主な取組について

#### 報告資料 3 新潟市令和８年度予算子ども未来部の主な取組

○事務局より、子ども未来部の予算などについて説明を行いました。

○委員からは、次の意見・質問がありました。

（渡辺委員）

子ども学校サポーターの配置というところなんですけれども、本当に今先生  
たちがいなくて教育現場すごい苦勞していると思うんです。すごくいい取り  
組みだと思うので、具体的などというふうな形やっていくのかっていうのが  
あれば教えてください。

（事務局）

今ご指摘の子ども学校サポーターに関しては、特別な支援を要する児童を支  
援するというので、特別支援教育課が所管しており詳細は分からないので  
すけれども、教職員が多忙な中で、一人一人の子供たちに手厚いを指導する  
ための人員を確保して各学校に派遣しているという事業でございます。

（渡辺委員）

私が PTA 会長をやっている学校なんですけど、先生が入院してしまって、代わ  
りに学年主任の先生、教頭先生、校長まで授業を行うことがあったりして、  
そういった時にこの学校サポーターに授業をしてもらえるのでしょうか。

（事務局）

お答えになるかわからないんですけども、この「子どもサポーター」も「学  
校サポーター」も基本的にはこの特別な支援を要する子どもたちへの支援員  
となります。この他、今学校現場では給食の見守りであったりだとか印刷で  
あったりだとか、教師でなくてもできる仕事を請け負うスクールサポートス  
タッフについて、新年度は小学校に全て配置するという風にして聞いており  
ます。

(鈴木委員)

保育士の魅力発信なんですけど、福祉も看護師もなり手がいないです。私の周りの子どもたちを見てると、ITとかお金の高いところみんな集まってくるんです。だから魅力とかやりがいでだけでは生きていけない、食べていけない時代になっていて、本当にそういう格差がすごくなっているんで、もちろんその魅力を発信することも大事なんですけど、給与保障をアップしていただくということもすごく大事なのかなというふうに思います。

(事務局)

保育士の給与面は国の公定価格で決まっているところがございますが、保育士の職員改善というのは国の方でも非常に重く受け止めていて、年末の人事院勧告で、何%アップというのが続いてきている状況です。今年度は12月に5.4%アップ、その前の年ですと10.7%アップでした。10.7というのは大きかったかなというところなんです。ただ、実際の保育現場ですと、資格のある保育士だけではなくて、保育の補助で入ってる方がいたりとか、支援の必要なお子さんのために加配しているんだけど、なかなかしっかりとその方の分まで対応ができていない部分があったりとかそういったところもあるので、全てが資格のある方の処遇に直接反映しているかということ、なかなか難しいところはありますが、そういったことは引き続き国への要望という形でさせていただいているというような状況でございます。

(斎藤副会長)

保育、教育、介護といったエッセンシャルワークに国がお金を出すようにしてもらわないとですね。東京あたりは国の決めた給与に上乘せして手当などを出しているところもありますが。

また、先生や保育士の仕事になぜつかなくなっているのか。一つは保護者との関係性が本当に大変になっている。いろんなクレームや苦情が来る。我々養成校としてもできる限りその魅力を発信し、子供と関わる仕事はお金に換えられないって言っても厳しい。私も関わってるんですが、1回やめた方の再雇用に取り組んでいますが、なかなか戻らないです。魅力発信とともに生活の保障ということを考えていく必要があります。

税金の使い道として、先ほどの部活の地域移行でありました移動のバスですとか、出産前後を始めとする医療ですとか子どもへ投資していくのもすごく大事なことです。

(藤瀬会長)

ありがとうございました。お話を伺って、私たちの立場でもまだまだやるべきことも多いなと思っておりまし、地域の皆さんからも力を貸していただくことが非常に多いかなというふうにも思いながら、ますますお力を貸していただいて子ども育ちが健全に保障されていくといいなと思いました。それでは進行事務局にお返しいたします。皆様長時間にわたりまして、本当にありがとうございました。